

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物看護学科) 令和2年度												
必修	分類		授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業方法		場所	教員	企業等との連携
	選択必修	自由選択		単位数	講義	演習		実験・実習・実技				
1	○		動物形態機能学 (概論・形態機能)	動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素である栄養素の消化と呼吸を理解するために、消化器の構造と機能を学ぶ。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を学ぶ。	1 前	30	○		○		○	
2	○		動物病理学	病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用いて学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解する。これらのことを利用して学ぶ。	2 前	30	○		○		○	
3	○		動物形態機能学 (比較解剖学)	動物の生命維持の仕組みと、解剖学および生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。	1 後	30	○		○		○	
4	○		動物形態機能学 (免疫学)	動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調整に関する基礎知識を得る。	2 後	30	○		○		○	
5	○		動物臨床看護学各論 循環器、呼吸器、皮膚、眼科、歯科	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。	1 通	30	○		○		○	○
6	○		動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り揃えることを目指す。薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し獣医療現場で使用される薬剤の特性を理解する。	2 通	60	○		○		○	
7	○		動物感染症学 (総論・微生物学)	主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物について学ぶ。	1 前	30	○		○		○	
8	○		動物形態機能学 (血液学)	血液の循環とその調整および呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つことを学ぶ。	2 前	30	○		○		○	
9	○		動物感染症学 (寄生虫学)	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌ、ネコに寄生する内部、外部の寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法を学び、飼い主に寄生虫感染の予防の大切さを伝られるようにする。	1 通	30	○		○		○	○
10	○		動物感染症学 (病原体・衛生管理学)	「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。	1 前	30	○		○		○	
11	○		動物繁殖学	本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動および発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。	1 前	30	○		○		○	
12	○		動物医療関連法規	獣医師とのチーム獣医療を構成する動物看護師は、動物看護師が行う獣医医療関連の業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し、獣医療現場および公衆衛生、環境関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として遵守の精神を養う必要がある。	2 後	30	○		○		○	
13	○		公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。動物の看護に関係する衛生学は、個々の動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病的予防を目的とする公衆衛生がある。公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。	2 通	60	○		○		○	

14	○		人間動物関係学	ヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIOの概念から、動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動なされているか知る。	2 前	30		○			○	○		
15	○		動物行動学 I II	動物行動学基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリングおよび基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を知る。	1 後 2 前	60		○			○	○	○	○
16	○		訓練学 I	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるので、獣医療従事者は、動物プロフェッショナルとして行動を的確に理解、判断しなければならない。「動物行動学－I」で学んだ知識を活用し、イヌやネコの基本的なしつけやトレーニングができるようにする。	1 通	30		○			○	○	○	○
17	○		伴侶動物学 (犬学・猫学)	犬種、猫種によるちがいとその飼育目的を理解し、それぞれの特徴とその目的を学ぶ。家畜化された以降の歴史、文学、芸術上に現れた人間との関係、各種の特徴、行動、役用犬の役割、猫の特性、飼育、しつけ健康管理を理解する。	1 前	30		○			○	○	○	○
18	○		動物福祉・倫理	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識から動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。特に、日本と欧米の歴史から動物観の違いを知り、ヒトと動物の関わり方への変遷を学ぶ。	1 前	30		○			○	○		
19	○		伴侶動物学 (エキゾチック学)	主にコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フレット、小鳥のほか、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、イヌとネコの違いを比較し、その種本来の習性に則した飼育、看護方法に反映することを目的とする。	2 後	30		○			○	○		
20	○		野生動物学	生態系における野生動物の位置づけと、野生動物の現状について理解する。野生動物の関連法規を学び、そこで求められている野生動物の取扱いについて理解する。特定外来生物に指定されている動物種を知り、外来生物がもたらす生協について理解する。	1 後	30		○			○	○		
21	○		産業動物学	産業動物と家畜の定義の違い、並びにこれらの特徴を理解する。産業動物と課程動物の飼養頭数の規模の違いを理解する。産業動物を飼養するために必要な法律について法的規制を理解する。	2 前後	45		○			○	○		
22	○		動物看護学概論 I II	「動物看護学」では、概論として動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。まずは動物看護技術を身に付ける以前に必要な要素について概論を学び、動物看護師を目指す目的に向かってステップアップをする。	1 後 2 前	60		○			○	○	○	○
23	○		動物内科看護学実習	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。症状別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる	1 通	90		○			○	○	○	○
24	○		動物臨床看護学総論	動物を看護するにあたり、動物看護過程の流れについて、看護動物とその飼い主に十分にアセスメントを行い、看護上の問題点を明確化する。看護記録に動物看護師の責任で記し看護上の問題点が解決するまで、看護計画に基づき看護実践、評価が繰り返し必要である。	2 前	30		○			○	○		
25	○		動物臨床看護学各論 (幼齢・老齢動物管理)	新生子から成イヌや成ネコになるまで、動物は身体的にも精神的にも様々な変化を経て成長するが、新生子期に必要な特有の看護技術や、成長段階の各時に最適な看護を学び、また、社会化期が一生涯の性格形成についてなぜ重要なのかを理解する。	1 通	30		○			○	○		
26	○		動物臨床検査学	検体検査においては、尿・糞便・血液・眼・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解する。また、生体検査においては、基礎的身体一般検査・X線検査等からCT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。	1 通	60		○			○	○	○	○
27	○		動物臨床栄養学	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を学び、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾患について各論として学ぶ。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的内容を理解する。	1 前 2 後	60		○			○	○		
28	○		外科動物看護学 I II	心肺停止状態をはじめとする緊急状態時に、チーム獣医療のスタッフとして救急救命処置の適切な補助を行う救命への関与は大きく、緊急処置を必要とする看護動物の来院時に慌てないよう、日頃の診療体制内においても機材の確保と救命措置の訓練を実施する。	2 前	60		○			○	○	○	○

29	○			動物医療 コミュニケーション	飼い主に受け入れられるような知識を蓄積し、その説明能力と傾聴姿勢を身に付けることが望ましい。特に家庭飼育動物は飼い主のコンプライアンスを高められることが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていることも理解する。	2 後	30		○			○			○	○
30	○			ペット アロママッサージ	運動不足や、ストレスを蓄積し動きの悪くなった動物をリラックスさせるマッサージ法について学ぶ。また、目的に応じたアロマの使用法についても学ぶ。この中には精油を用いるアロマセラピーも含む。	1 後 2 前	30		○			○			○	○
31	○			訓練学Ⅰ、Ⅱ	実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う	1 通 2 前	90		○			○	○		○	○
32	○			動物飼育実習Ⅰ、Ⅱ	実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、動物の心身の健康の保持に努める。また、繰り返し実践することで動物の観察力を養うとともに、他の人と協力して飼育作業を行う協働性を身につける。	1 通	180				○	○			○	○
33	○			動物臨床看護学実習	講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。	2 通	45				○	○	○		○	○
34	○			動物形態機能学実習Ⅰ、Ⅱ	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行なべきか症別の看護のポイントを学ぶ。症別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる。	1 後 2 後	45				○	○	○		○	○
35	○			動物臨床検査学実習Ⅰ、Ⅱ	臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。	1 後 2 通	90				○	○	○		○	○
36	○			動物外科看護学実習Ⅰ、Ⅱ	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価および状態把握の目的・意義を理解する。	1 2 通	210				○	○	○		○	○
37	○			動物看護総合実習	チーム獣医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を経験する。今まで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を發揮し、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を育てる。	2 通	180				○	○	○		○	○
38	○			看護職支援	統一認定看護職師の試験対策として過去に出題された問題、あるいは学院作成の問題を解く過程で重要事項について認識し整理する。	2 後	15		○			○		○		
39	○			動物園等実習	動植物園では動物ごとの飼育管理法を学び、野生動物の保護のための種の保存や教育活動について知る。また、動物飼育のみならず植物管理、施設管理についても学び施設全体の運営について学ぶ。また動物愛護センターでは飼育技術についてのノウハウを学びながら保護動物や譲渡会の管理運営について理解する。	2 通	64				○	○	○		○	○
40	○			海外研修	海外の動物先進国の動物事情や動物関連施設を直接見て、現地の風俗習慣の違いを実感することも大切なことである。充実したものとするためには訪問先などの下調べを行い、海外研修をとおして日本と海外の動物業界の違いを学ぶ。	1 後	64			○				○		
41	○			プレインターンシップ	1年次夏期休暇期間中に、竜之介動物病院で最初のインターンシップ(プレインターンシップ)を行う。合格しなければ次のインターンシップに進めない。プレインターンシップでは飼育実習で学んだことを十分発揮することが肝要である。	1 前	32			○			○	○	○	○
42	○			インターンシップ	インターンシップは、卒業後に就職する職場を体験、理解するために理想的なシステムである。インターンシップは将来の自分の就職先に直結した非常に大切な体験の機会である。在学2年間で5回以上のインターンシップをしなければ卒業できない。	1 2 通	200			○			○	○	○	○
43	○			学外学習	動物愛護センター、動物園、観光牧場等を訪問し、その活動や運営について、直接説明を受けながら現場を見学し学ぶ。また各業界の動物に関する状況と違いや飼育管理法等や課題などについても理解する。	1 2 通 年	32		○	○			○	○	○	○
44		○		社会活動	飼育放棄された動物の里親探しや小さな捨て猫を飼育するボランティア活動、またTNR活動(野良猫の不妊活動キャンペーン)、ドリームナイトアットザズー(難病、障害のある子どもたちを動物園に招待する活動)、動物介在活動(老人施設を訪問し動物たちとのふれあい活動)に参加し、これらの活動を通して生命の貴さや社会貢献の大切さを学ぶ。	1 2 通		1		○						

45	○			愛玩動物飼養 I	法律に基き、動物の愛護と適正な飼養管理についての知識の普及および指導を行なうものに必要な愛玩動物飼養管理士を目指す者が学ぶ。また愛玩動物飼養管理士資格の取得支援を行う。	1 前	15		○			○	○	○			
46	○			英会話、海外研修	英会話に海外研修も含める。海外研修は、海外における先進的な知識、技術を観察し、その中で将来の動向をつかむ。また動物保護状況、施設、運営およびその心構えも学ぶ。海外研修での成果もここで評価する。	1 通年	30		○			○	○	○	○		
47	○			パソコン	社会人あるいは病院事務に必要とされる実務能力の一つとしてパソコンの使用方法を身につける。履修終了時にはライセンス(Word、Excel)の取得を目指す。	1 後	15		○			○	○	○	○		
48	○			掃除学	動物関連産業では、動物の収容施設の清掃管理は勿論のこと、環境整備は最重要課題の一つである。清掃にたずさわる際の心がまえ、ポイント、消毒の重要性さらにその効用を学びかつ毎日実践する。	1 後	15		○		○	○	○				
49	○			ビジネスマナー I II	ビジネスマナーとしての接客、言葉使い、礼儀作法、行動など社会人としての基本的な作法を身につける。就職対策としての履歴書の書き方、面接をうける作法を学ぶ。さらに一般人とのコミュニケーション能力を高める。	1 前 2 後	45		○			○		○	○		
50	○			就職支援	就職に関する考え方や動物業界の動向について共有し、目指す就職先への就職実現に向けて支援する。	2 前	30		○			○	○				
51	○			学年活動	1年次における学年運営に係る課題について検討し改善策を探る。	1 前	15		○	△		○	○				
52	○			掃除学	予防医学の見地からも掃除は重要である。汚れの種類と洗剤選びから基本動作と道具まで送辞の基本を学ぶ	1 後	19		○		△	○	○				
53	○			ライセンス対策	在学中の取得できる、家庭犬インストラクター、コミュニケーション検定、日本ペットビジネス協会等の資格試験対策	1 後	3.5		○			○	○				
54	○			トリミング	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身に付け、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力までを習得する。グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める。	1 2 通	240				○	○	○	○	○		
合計				54科目											2758単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------